

保育者養成校における弾き歌い指導について

佐 藤 邦 子*

(2013年11月13日 受理)

Effective Teaching Methods for “Singing and Playing” in Childcare training-schools

Kuniko SATO*

The aim of this thesis is to study the effective teaching method for improvement of techniques on “Singing and Playing” in Childcare Academies in Childcare training Schools. The analysis results of the surveys of the students and the teaching staffs revealed the improvement and the effective points on the current activities (Schoolwork, Private lessons and Check of Singing and Playing). In this thesis the practical teaching methods as well as the improvement points on the activities mentioned as above were discussed.

Keywords: Singing and Playing 弾き歌い, Childcare training-schools 保育者養成校, teaching method 指導方法

1. はじめに

弾き歌いとは元々「長唄などで本来は唄と三味線を別の人を受け持つのに、それを一人で兼ねて演奏すること」¹⁾である。保育においては、童謡やあそびうたなどの子どものうたを歌いながらピアノやギターなどの楽器で伴奏するのが一般的であるが、我が国の弾き歌いで使用される楽器は、ピアノあるいはキーボードなどの鍵盤楽器であることが非常に多い。鍵盤楽器習得には多くの努力と時間が必要である。さらに同時に二つの行為を行うことの難しさもあり、保育技術の中でも習得することが難しい課題の一つとなっている。

保育現場からは、“ピアノや弾き歌いの技術よりも、子どもと一緒に歌える力のほうが大事”と言われながらも、就職試験で弾き歌い、ピアノの能力を問う園は未だに多い。東ら(2007)の保育現場の就職試験の実態調査²⁾においても、実技試験のほとんどがピアノ演奏を含むものであることがわかっている。筆者は、就職試験対策のためだけでなく、保育者が、子どもが歌うことに合わせて伴奏をすることや、伴奏をしながら保育者自身が子どもたちと一緒に歌うことは、子どもの豊かな音楽表現の育成に大きく寄与すると考えている。このことから、学

生に弾き歌いの技術を身につけて欲しいと考えている。

現在、保育者養成校ではピアノ、弾き歌い習得のためにさまざまな試みがなされている。筆者は、保育者養成校で音楽・表現に関する指導の経験から、弾き歌いの技術向上のためには、指導内容の充実はもちろん、複数の取り組みとそれらの連携、学生と指導者が共に効果的な方法について模索する体制が大事であると感じている。

保育者養成における音楽教育は、一般教養としてのみならず、保育、幼児教育現場において必要とされる音楽学習となる。本学での「音楽」の授業は、文科省の定める幼稚園教諭免許状取得のための教科に関する科目、また、厚労省の定める保育士課程の「保育の表現技術」の中に位置づけられ、そのねらいは「子どもの表現活動に関する技術の習得」とされている。

音楽表現に関わる保育を行う上で必要な技術とは、広くは「子どもの豊かな音、音楽的な表現を受け止め、育むこと」である。平成元年に改訂された幼稚園教育要領、保育士保育指針以降、音楽の位置づけは、「歌うこと」「楽器を鳴らすこと」といった音楽活動そのもの、あるいはその結果をねらいとするものではなく、子どものありのままの表現や表現しようとする気持ちを重視するものになっている。このことから保育者養成における音楽教育はただ歌唱や器楽の技術を身につけるだけでな

* 広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科准教授

く、子どもの表現を基盤にした音楽について学ばなければならない。

しかし、現実にはこれらの内容を扱う授業は限られており、この限られた授業数の中で子どもの音楽的表現を認め、援助する技術と、ピアノ、弾き歌いなどの日常で行われている活動のためのスキルを身につけることが求められている。

また2012年度、本学に出された広島県の幼稚園、保育所141園の求人票から現在の就職試験における音楽試験の実態を調べてみると、保育所93園うちピアノなどの試験がある園は56園、幼稚園48園うちピアノなどの試験がある園は43園であった。音楽実技試験は減少傾向にあるものの、幼稚園で90%、保育所で60%の園で、音楽実技試験を課していることがわかる。このことから養成校は就職試験、採用試験に課せられているピアノや弾き歌いなどの音楽技術試験のための学習も担っているといえる。

これら背景を踏まえ、本稿では保育者養成校における弾き歌いの技術を向上するための効果的な方法について検討することを目的とする。学生および指導者へのアンケート調査結果を分析することにより、現在行っている3つの取り組み内容に対する効果ならびに改善点を見出し、弾き歌い技術を向上するための効果的で実践的な指導方法と取り組み内容の改善点を考察していく。

2. 本校における音楽教育～弾き歌いを中心に～

保育者養成校では、音楽技術向上のためにさまざまな試みがされている。ここでは弾き歌いの観点から、本校での音楽教育の内容と取り組みについて述べる。

本校における音楽に関わる授業は、①音楽Ⅰ②音楽Ⅱ③表現Ⅰ④表現Ⅲ⑤初等音楽科教育法⑥児童文化⑦子どもと遊びⅠ⑧子どもと遊びⅡである。この中で、弾き歌いを扱う授業は、音楽Ⅰ・Ⅱ、表現Ⅰである。また、本学では独自に授業以外での取り組みとして、学内ピアノレッスン、月1弾き歌いチェックを行っている。ここでは、これらの弾き歌い技術向上のための取り組みの内容について述べていく。

(1) 授業

1) 音楽Ⅰ／1年生春学期／保育士幼稚園教諭選択必修科目：子どもの音楽表現に関わる音楽の基礎的な知識、技術を身につけることを目的とし、子どものうた、またそれに伴う伴奏法、弾き歌いについて学ぶ。具体的には、前半45分をリトミックの手法を用い、音楽の基礎を学ぶこと、さまざまな子どものうたを知り、音・音楽を媒体として子どもの豊かな音楽表現を認め、援助できる力を身につけることを行っている。後半の45分では、ML

(ミュージック・ラボラトリー)を使用し、一斉学習による伴奏法、弾き歌い学習を行う。授業初回の弾き歌いレベルチェック、中間、期末弾き歌い試験結果によりA～C(A=初級 B=中級 C=上級)の3段階のレベルに分け、レベル別に課題曲、伴奏法到達レベルを変えている。音楽Ⅰの授業で扱ううたは以下のとおりである。

・お名前おしえてくださいな・キャベツの中から・カレーライス・あくしゅでこんにちは・五つのメロンパン・こいのぼり・ちょうちょう・ぶんぶんぶん・チューリップ・とんとんひげじいさん・パン屋さんにおかいもの・キラキラ星・アイアイ・こぶたぬきつねこ・もりのくまさん・かえるのがっしょう・かたつむり・雨降り・うみ・たなばたさま・遠足に行こう・カミナリドンドン!・かなづちトントン・ドレミのうた
選曲は、あそびうたを通して、学生間のコミュニケーションがはかれること、保育現場で歌われているうたで季節や行事に関わるもの、手、身体などを多く使う歌ものなどを考慮しながら行い、うたの活動を通して表れる子どもの表現を想定しながら学習を進めていく。また伴奏法では、主要三和音、コード(トライアドコード)の理解を中心に伴奏づけの基礎を学ぶ。

2) 音楽Ⅱ／1年生秋学期／保育士、幼稚園教諭選択必修科目：音楽Ⅰで培った音楽表現の基礎知識、技能を発展させ、応用できる力を身につけることを目的とし、引き続き子どものうたを中心にした学習を行っている。音楽Ⅱでは、ピアノを弾く事に加え他者と合わせる「アンサンブル」能力の向上をめざし、クリスマス連弾コンサートという形で、連弾、合奏を行っている。特に連弾では、初心者、経験者問わず、楽しみながら主体的にピアノの学習する姿がみられ、技術向上に役立っていると思われる。音楽Ⅱで扱うこどものうたは以下のとおりである。

・まつぼっくり・とんぼのめがね・おおきなくりのきのしたで・きのこ・どんぐりころころ・こおろぎ・村まつり・やきいもグーチーパー・しょうじょうじのたぬきばやし・大きな古時計・まっかな秋・でぶいもちゃんちびいもちゃん・いもほりのうた・世界中のこどもたちが・さんぽ・ミッキーマウスマーチ・北風小僧の寒太郎・あわてんぼうのサンタクロース・We wish a Merry X'mas・サンタが街にやってくる・きよしこのよる・ジングルベル・赤鼻のトナカイ・お正月・カレンダーマーチ・はじめの一步

選曲は季節、行事を考慮し、音楽の要素としては、主要三和音の聞き分けができ、授業で扱っている以外のうたの伴奏にも応用できること、セブンスなどコードの種

類を増やし、和音の響きの広がりを感じ、伴奏づけができることを目指している。

3) 保育内容「表現Ⅰ」／2年生春学期／保育士、幼稚園選択必修科目：この授業では、保育内容領域「表現」を理解したうえで、あそびうたを中心とした部分実習を立案し、実際に幼稚園で部分実習を行い、あそびうたを通して子どもの音楽的表現を豊かにする援助技術を身に着けることを狙いとしている。この授業では、弾き歌いの習得をメインに行ってはいないが、部分実習で行う弾き歌いについて、より実践的な指導、助言を個別に行っている。

(2) 学内ピアノレッスン／1～4年生対象

学内ピアノレッスンは、昨今保育者養成校で問題となっているピアノ初心者増加に伴った対応策の一つである。本学では、ピアノ経験のない、あるいは非常に少ない学生に対する学習援助として2007年後期より、授業外でピアノ、弾き歌いの個人レッスンを学内で受けられるシステムを設けている。レッスンの目的は、ピアノ、弾き歌いの能力が、保育現場での音楽表現活動に対応し得るレベルに達すること、また公立保育士採用試験、各園の就職試験（音楽）対策である。具体的に1年生は、音楽ⅠおよびⅡの授業で行っている子どものうたの弾き歌い課題曲の習得、2～4年生は、月ごとに与えられる課題曲6～8曲の習得を目的にしている。ピアノレッスンは希望制で、毎学期はじめのオリエンテーション時に配布される「レッスン申込書」にレッスンを希望する旨、授業時間割を記入し提出する。現在5名のピアノレッスン講師により、1コマ4～7名（平均6名）で個人レッスンを行っている。2012、2013年度のレッスン受講者数は、以下の通りである。

【レッスン受講者数】

2013年度

() は入学年度

	1年生 (13)	2年生 (12)	3年生 (11)	4年生 (10)	合計
春学期	74	48	27	40	189
秋学期	50	42	29	21	142

2012年度

	1年生 (12)	2年生 (11)	3年生 (10)	4年生 (09)	合計
春学期	64	52	44	30	190
秋学期	60	33	35	17	145

(3) 月1弾き歌いチェック／2～4年生対象

音楽の授業のない2～4年生が、継続的に弾き歌いの学習に取り組む環境として、月1回弾き歌いチェックを設定している。学年ごとに集まり、全員の前でその月の課題曲（6～8曲）の中からその場で指定された1曲を弾き歌うものである。各学期のはじめに、チェックを希望する学生はエントリーする。ピアノレッスン受講者は必ず受けることとし、未受講者は任意参加である。2012年度のエントリー数は、春学期2年生79名、3年生61名、4年生50名、秋学期2年生51名、3年生44名、4年生24名である。講師1名がチェックし、その場でコメントする。後日、担当した講師はコメントと、うた、ピアノの2項目を各5点、総合評価10点満点の評価をまとめ、他の講師に配布し以後の指導に反映させる。

(4) 各取り組みの意図、連携、留意・工夫している点

ここでは上記に挙げた弾き歌い技術向上のための3つの柱「音楽関連の授業」「学内ピアノレッスン」「月1弾き歌いチェック」の教育的意図、ねらいについて、またそれぞれの取り組みをどのように連携させているかについて述べる。

授業では、音楽の基礎的知識を付けること、実際のあそびと結びつけた伴奏法を理解することをねらいとする。グループ学習によって音楽の楽しさを共有することを大切に授業を心掛けている。ピアノレッスンでは、弾き歌いの指導をしている。一人ひとり異なった個人の問題点の解決と一斉指導でカバーしきれない個人の悩みの解決、またピアノの練習を習慣付けることをねらいとしている。さらに言葉遣い、態度、服装、爪などのマナー全般を身に付けさせる。月1チェックでは、緊張対策、試験対策、自身の課題発見、人前で弾くことに慣れること、練習計画が立てられるようにすることをねらいとしている。

学生の状況を、授業者とレッスン担当者が常に共有できるように出席簿によって毎日出席状況のチェックをすること、気になる学生に対しては、口頭であるいはメモで伝え合うなど、連携を密にとる対策を取っている。また今年度より、月1弾き歌いチェックをピアノレッスン講師も担当するようにした。

3. 調査の方法と結果

(1) 調査方法

「ピアノ・弾き歌いに関するアンケート」と題したアンケート用紙を2013年度秋学期オリエンテーション時に配布し、その場で記入、回答、回収を行った。概略は以下のとおりである。

実施日2013年9月21日（土）無記名式

1年生在籍96名、回収数88、2年生在籍84名、回収数78、3年生在籍96名、回収数58、4年生在籍95名、回収数72、合計295

（２）調査の内容

調査内容は大きく分けて３項目であり、１項目目では、ピアノ・弾き歌いに関する本学での３つの取り組みを挙げ、役に立ったかを５段階で問い、選んだ理由を記述するもの。２項目目は、これらの取り組みに対し改善して欲しい点を自由記述するもの。３項目目はピアノ、弾き歌いに関して困っている点、悩んでいる点を自由記述で求めるものであった。

（３）結果と考察

「役立ったか」に対する回答の、音楽Ⅰ・Ⅱについて、とても役に立っている、役に立っている、は１年生99.7%、２年生95.7%、３年生98.3%、４年生97.2%と、高い確率で役にたっていると感じているということがわかった。

【理由】主な理由を抜粋 ・役立つ理由 ▲はどちらともいえない、役に立たない理由

１）授業（音楽Ⅰ・Ⅱ）１年次

〈１年生〉

- ・モニターで先生が弾くのを実際に見ながら練習できる
- ・ピアノや弾き歌いの基礎が学べる。コツがつかめる
- ・先生と一緒にできるから
- ・いろいろなうたを習うことができる
- ・ピアノに自信がないから
- ・練習するくせがつく

- ・表現する力がついた
- ・最初より上手くなった気がした
- ・子どもの目線で歌うことがわかる、楽しい
- ・楽譜通り以外にも伴奏法があるとわかった
- ・現場に行ったときどうすればよいかわかる

▲声を少し出しにくい

〈２年生〉

- ・知らない曲を実際に聴くことができ、弾き方を教えてもらえるから
- ・実際に上達が見られた
- ・先生からアドバイスがもらえる
- ・就職に役立つ
- ・みんなでやることで意欲がわく
- ・ピアノに触れる習慣がつく
- ・丁寧に学べた
- ・現場で絶対に必要なスキルだと思う。回を重ね慣れることが大切だと思うため
- ・緊張感を持って、練習、テストを行うことができるため
- ・実習に役立つ

▲どう弾けばよいかはわかるが、ついていけないことがあった

〈３年生〉

- ・弾き歌いに慣れる
- ・いろいろな曲に触れ合うことができる
- ・レパートリーが増える
- ・人前で弾くことに慣れる
- ・グループでの活動など、一人ではできないことができた
- ・自分がどのくらい弾けるのか、これからどうしたらよ

１）「ピアノ・弾き歌いに関するアンケート」

	学年	とても役に立っている	役に立っている	どちらともいえない	役に立っていない	全く役に立っていない
①音楽Ⅰ・Ⅱ	1	58	27	2	0	0
	2	41	26	2	1	0
	3	31	26	1	0	0
	4	44	26	2	0	0
②ピアノレッスン	1	44	31	1	0	0
	2	35	26	9	0	0
	3	26	11	2	1	0
	4	50	17	2	0	0
③弾き歌いチェック	2	17	41	17	1	0
	3	24	21	3	0	0
	4	42	27	3	0	0

いのかわかる

- ・実用的なピアノの弾き方を学べた
 - ・みんなと一緒に様々な曲と触れ合うことができるから
 - ・友人同士でアドバイスできたり、教えあったりできる
- 〈4年生〉
- ・モニターで先生の弾いている指使いなどを見ながら弾ける
 - ・和音や音階などの基礎知識が身に付く
 - ・コード伴奏が勉強できた
 - ・自分一人で練習しただけではわからないことを知ることができる
 - ・自分しか音が聞こえないので周りを気にせず練習できる
 - ・指導がわかりやすい、わからないことをすぐに聞ける
 - ・伴奏の仕方を勉強できた
 - ・両手伴奏や自分で伴奏をアレンジする方法を教えてもらえた
 - ・いろいろな曲を知ることができた
 - ・音楽についての楽しさ、おもしろさを知ることができる
 - ・ほかの人の上達状況が知れる
 - ・即興も学べたこと
 - ・ピアノが未経験だったが弾けるようになった
 - ・授業の進め方が、実際に現場であそびうたをする時の参考になった
 - ・一人一台ピアノがあってよかった

▲全員のレベルが違うので難しいと思った

【考察】

音楽の基礎知識を身につけること、実際のこどもの遊びと結び付けた技術の習得という授業の目的達成についておおむね役に立っており、ML 機器の特にモニターで講師の弾いている様子が映し出される設備、またコード伴奏が役立っていることがわかった。ピアノノレベルがさまざまである学生の伴奏法を一斉授業で行うことについては、1名が難しいと感じていたが、そのほか多数が、一斉で行うことで、友達同士で教えあえる、自分のレベルがわかるなど、一斉授業がもたらす効果が浮き彫りになった。

2) ピアノレッスン1～4年次

ピアノレッスンに関しては「とても役に立っている」「役に立っている」の合計が全体の、1年生98.7%、2年生87.1%、3年生92.5%、4年生97.1%という結果から、役にたっているということがわかった。

【理由】

〈1年生〉

- ・1対1で教えてもらえるので、自分の苦手なところの練習ができる

- ・練習した成果を聞いてもらえる
- ・適確なアドバイスが聞けて、改善しやすい
- ・先生が丁寧に教えてくれる
- ・ピアノ教室と違い学校の内容でレッスンして下さるから
- ・わからないところを教えてもらえる
- ・苦手なところを教えてもらえる
- ・試験のためのアドバイスなどがもらえるから
- ・どんなに小さなことでも、質問しやすい
- ・習いにいかなくてもいいから
- ・ピアノを弾くことが増えたから
- ・ピアノを習ったことがないが、先生方がとても優しく教えて下さるから
- ・わからないところを詳しく聞けて、できるまで教えてもらえた
- ・自分の苦手なところや弱点を確認できるから
- ・初心者でもできるようになってきたし、自信がついた
- ・先生が教えて下さること、励ましがとても力になり、やる気がわいてくる
- ・授業で追いつけなかったところを教えてもらえるから
- ・間違ったりリズムや音で弾いていたところを、週一で直してもらえる
- ・自分のレベルに合わせてやさしく教えてもらえる

▲進行具合の確認だけで、あまり指摘されない

▲時間が短く、時間割的に微妙

〈2年生〉

- ・個人のレベルに合わせてレッスンしていただける
- ・レッスンがあることで練習しようと思えるから
- ・コツややり方を教えてもらえる
- ・友達に聞いても違う答えが返ってきたりするため、レッスンの先生に教わりたい
- ・この曲の場合はどうしたらよいかなど、伴奏のやり方を教えてくれるから
- ・自分の欠点を教えてもらえる
- ・学外のピアノ教室にいく時間がなく助かる
- ・弾き歌いについてよく知っている先生方に教えていただける
- ・レッスンがあるために練習する意欲が高まる

▲先生によっていうことが変わる

▲時間が短いのと、レッスンというより現状を先生にみせるだけの気がする

▲練習の過程でなく、練習の結果を見てもらうため、間違えて覚えてきたら直せなくなる

▲先生によって教え方が違う。先生の当たり外れがある

〈3年生〉

- ・苦手なところを克服できる
- ・定期的にピアノを弾ける
- ・表現の方法を教えていただけるので助かっている
- ・1対1で受けることはよいが、学期ごとに先生が変わってしまうと、もう一度関係を作らなければならず残念です
- ・保育所や幼稚園で役立つような練習ができるから
- ・わからないことをそのままにせずアドバイスが受けられる
- ・やっている人と、やっていない人の差が出ている
- ・無料でレッスンが受けられる
- ・学校で受けられるのがうれしい
- ・弾く技術も必要だが、子どもを相手にした弾き方を学ぶことができた
- ・自分だけでは怠けてしまう
- ・レッスンに向けて練習する
- ・定期的に受けられる
- ・週1回あるとわからないところをすぐに聞くことができる

▲ピアノは自分がどれだけ練習したかによる。自分の場合は初心者でなかったので毎回ただ見てもらうだけでした

〈4年生〉

- ・校内ピアノレッスンを受けてピアノの力がついたと思う
- ・レッスンを受けていなかったら練習をあまりしなかったと思う
- ・その曲に合った伴奏の仕方を教えてもらえた
- ・レッスンを受けることで、ピアノが苦手でも少し不安が取り除けた。直接指導を受けることが一番力になった
- ・自分のペースに合わせて指導していただける

【考察】

校内ピアノレッスンの目的は、学生一人一人異なるピアノ・弾き歌い習得に関する悩みや、わからないことに対して個別に対応し、一人一人に合った方法で上達させることである。これに関しては概ね満足していることがわかる。また半期15回（ほぼ週1回）のペースでレッスンがあることによって、練習を習慣づける効果もあったということがわかる。マナーなどの態度に関する記述は見られなかったが、ピアノレッスンを受けている学生の弾き歌い時の態度は明らかに向上していると感じる。

「どちらともいえない」「役に立たない」理由として、レッスン時間（平均15分）が短い、また特に経験者からの意見であると思われるが、譜読みが正確にできる、止まらないで弾ける程度で指導が終わってしまうこと、先

生によって指導が違うことなどが挙げられた。

3) 月1弾き歌いチェック 2～4年次

弾き歌いチェックについては、とても役に立っている、役に立っている、の合計が全体の、2年生76.3%、3年93.8% 4年生95.8%であった。

【理由】

〈2年生〉

- ・自分では練習をサボりがちになってしまうので、とても助かっている
- ・緊張感の中でやることの練習になる
- ・みんなの前で弾くことで力が身に付く
- ・個人ではできても、みんなの前になるとできなくなったりするといけないのでその練習になる
- ・目標があると頑張れるから
- ・人前で弾くことに免疫がついた
- ・知らなかった曲を知ることができた
- ・将来子どもたちの前で弾く時に緊張せずに弾けるから
- ・お手本で1回弾いたのを聞きたい
- ・月1回も弾き歌いチェックがあると思うと練習するし上手くなっていると時間でできるから、レベルの高い曲が多出るときは間に合わない時がある
- ・子どもたちの前で弾く時の練習になった

▲月一だと完璧に弾けない曲がでて、中途半端になってしまう

▲月1を2か月に1回にしてほしい

▲月1は多いかなと思う。秋学期に3回程度がいいと思う

▲春は特に忙しかったからしょっちゅう弾き歌いチェックをしていた気がする。練習時間が取れず、形だけの演奏になってしまう気がした

〈3年生〉

- ・弾ける歌のレパートリーが増える
- ・学生のうちに人前で弾くことに慣れておきたい
- ・自分以外の人の弾き歌いをきくことができる
- ・普段は人前で弾く機会がないので弾き歌いチェックは良かった
- ・友達から刺激を受けることができる
- ・定期的な発表の場は皆にとって損はないと思う
- ・チェックしなくなってからまただめになった
- ・緊張に弱いので就職試験に強くなれそうだから
- ・自分の力を試すことができる
- ・度胸がつく。だんだんあがらなくなってくる
- ・弾き歌いチェックがあることで、気が引き締まる。やる気が出る
- ・普段通りにできなかったりするので、緊張するとどのような傾向があるのかを知り、それをどう改善す

ることができるのかを弾き歌いチェックで見つけて実践することができる良い機会だと思う

- ・アドバイスをもらえたり、みんなの頑張っているところを見たりして、自分も頑張らなきゃと思う
- △皆の前で弾くのはどうなのだろう・・・でも回数を重ねるごとに慣れ、一番初めに比べると緊張しなくなった

▲曲数が多いのでどれも月1だと中途半端になる

〈4年生〉

- ・他人の伴奏を聞くことができる
- ・人前で弾くことで試験のイメージができた
- ・緊張感の中で弾く機会が役に立つ
- ・定期的に練習する
- ・いつも嫌でしたが、みんなの前で弾くことで度胸がつき自信がついたので良かった
- ・自分の弾き歌い技術の向上や苦手部分の発見など自分の成長がわかるから
- ・1か月の間に何曲程度取り組むかなど、ピアノの練習に取り組むめどがつくから
- ・人前で歌うことで実際に子どもの前で歌っても緊張がなくなった
- ・人前で弾くことで、弾くだけでなく、聴かせるということ意識できる
- ・自分一人ではなかなかできなかった
- ・弾き歌いチェックがあるから練習した

【考察】

弾き歌いチェックのねらいである、緊張対策、試験対策、自身の課題発見、人前で弾くことに慣れること、緊張とどのように付き合うか、練習計画が立てられるようにすることに関して、指導者の意図する学習のねらいを学生自身が把握し、取り組もうとする姿勢がみられた。2年生の結果が76.3%と全体から見て低い数値になっていることについて、理由の記述から考えられる原因は、チェックの回数が月1回は多いと感じていることが挙げられる。1年時の授業では、中間、期末の2回の試験だったのに比べて、半期で4回のチェックを多いと感じたのではないかと考えられる。3、4年生で回数に対する不満がなかったのは、月1回のペースに慣れ、大変さよりも人前で弾く機会や練習を習慣づけられることの効果について時間したことによるものではないかと考えられる。

- 4) 3つの取り組みについて、良いと思う点・改善したほうがよいと思う点 ※①～③の理由と重複しているものは割愛した
- ・良い点 △改善点

〈1年生〉

- ・ピアノレッスンをすることで授業の見直しができた
- ・コース別になっているところ
- ・技術だけでなく表現力も大切だということが分かった
- ・音楽の授業でリトミックをするのがよかった
- ・個人で練習できる部屋があって非常に便利である
- ・授業は自分の知らない曲も、どんな曲か確認できて、曲も好きになれるのでとてもよい

△弾き歌いの試験は個別でしたほうがよい

△弾き歌いの時、みんなの雰囲気が怖いところは改善すべき

△弾き歌いでつらい体験をしてピアノが怖く感じる

△できればピアノレッスンの時間をきっちり15分にしてほしい（大幅オーバーなど）

〈2年生〉

- ・みんなの前でテストするのは良いと思う
- ・チェック課題曲数もちょうどいい
- ・弾き歌いチェックはみんなに自分の練習の成果を発表することができて自分にとっても良いし、聴く側の時も勉強になる
- ・レッスンでやる気が出る
- ・学内レッスンを週2に増やしてほしい
- ・毎週ピアノに触れることで音楽の感覚を身に着けることができると思うから少しずつでも弾いたほうがよい
- ・弾き歌いチェックでいろんな先生が見てくださるのがよいと思う
- ・いろんな曲を知ることができたし、移調ができるようになった

△評価をもう少し詳しくしてほしい

△チェックの時時間がかかる。少人数にしてほしい

△レッスンを受けていないので、わからないことをだれにきいたらよいかわからない。質問できる機会があったらうれしい

△弾き歌いの課題曲を少し減らしてほしい。得意な曲と苦手な曲のばらつきがでてしまう

△ピアノレッスン受講を自由になると授業でピアノがないとまったく弾かなくなった。授業でピアノを強制的にでも弾く機会があっても良いのではと思う

△チェックの時、聴いている人も一緒に歌ったらいと思う

〈3年生〉

- ・弾き歌いチェックは緊張するけれど、勉強になる
- ・月1回は多いと感じる時もあるが、定期的に人前で弾く機会があるとピアノを練習する習慣がつく
- ・季節によってよく歌われる歌を弾いているのでとても

よかったですと思いました

・その場で曲名を言われて弾くプレッシャーに耐えられたら現場で緊張しないと思う

△弾き歌いチェックの結果を次の自分の課題にしたいので教えてほしい

△ピアノレッスンを自分の希望の時間にしてほしい

△もっと楽しく（ゆるくという意味ではありません）弾き歌いチェックができればいいなと思います

△レッスンの時間が短かったり長かったりするのを揃えて欲しい

△もっと難しめの曲も練習したい

△チェックの先生が変わるのは少し嫌。先生に継続して練習の成果を見え欲しい

〈4年生〉

・一人暮らしの場合、学外でピアノを習うのは難しかったため、学内でレッスンしていただけるのは助かる

・いろいろな先生にみてもらえるのがよかった

・教えてもらった両手伴奏などが役に立っている

・4年間を通して人前で弾くことに慣れ、子どもの前では緊張することがなかったためとてもよかった

・学内で、無料でレッスンを受けられる学校はほかはないと思います。弾き方のアドバイスなどいただけるのでとても役に立っています。

・実習を通して改めて弾き歌いの大切さを学びました

△初見の練習を取り入れたほうがよいと思う

△チェックは週1回1～3曲で行うのもよいかと思う

△弾きうたいチェックの日が近づいてくると、ピアノの台数がなくなること

△レッスンを受けられる人数が少ない

△学内レッスンはもっと多くの人が受けるべきだと感じた

△学内ピアノレッスンの時間を増やしたほうがよいと思う

△レッスン担当の先生でなく授業担当講師にもマンツーマンでレッスンしてもらえる時間があるとよいと思う

△弾き歌いチェックは専任講師にしていきたい。一人一人のピアノのレベルを大体把握しておられるのでその学生に合ったピアノ曲を選ばれると思いました

△弾き歌いチェックは月1回でもよいのですが、あせってやってその場限りの人ときちんとやっている人でわかれており、身になっている人となっていない人でわかれている。何かポイント制のにしたら1年生からでも親身にやると思う

△課題曲で知らない曲もあるので、一度弾いていただけたらうれしい

△弾き歌いチェックする先生をもっと増やしてみても良かったほうがよい

△即興で弾くピアノについてもっと学びたかったです

△2週間に1回ピアノチェックをして、曲数を2, 3曲にしたら集中できると思った

△ピアノ練習室をもっと増やしてほしい

△弾き歌いチェックが終わると気が緩んでしまい直前人って練習することもあったので、月1回でなく2週間に1回くらいでもいいと思いました

△月1チェックは先生のお手本がみられればそのお手本を目標にピアノを弾く練習ができと思いました

△ピアノレッスンのグループの中で、弾き歌いチェックの中間チェックをしたらいいのではないかと思います

△可能であればレッスン日を追加してほしい

【考察】

この項目では、主に「月1弾き歌いチェック」と「学内ピアノレッスン」についての意見が挙げられた。「月1弾き歌いチェック」では、一度にチェックする人数、チェックを受ける姿勢、課題の曲数についての意見、「学内ピアノレッスン」については、レッスン時間、内容について良い点、改善点が細かく記述されており、弾き歌い、レッスンに対する関心の高さが見て取れた。前述の「役立ったか」で挙げられた理由も含め、レッスン時間に関しては、もっと多く取ってほしいという意見と、時間をきっちりしてほしいなどの意見が挙がった。またチェックに関しては、チェックする人数が40名前後であることで、緊張対策になるという意見と、人数が多く、精神的な負担を感じるという意見の両方が挙がった。

授業以外の取り組みについては、任意参加であることから、学生は単位や評価と無関係に自分自身の技術向上のために取り組んでいる。学生が自らの保育技術の習得によいと思う方法を、指導者側が柔軟に対応することによって、受け身の学びから主体的な学びへと向かっていくと考えられる。そのため、学生から挙がった改善点で効果があると思われるものについては積極的に取り入れていきたい。

高学年になるにしたがって、大変だったが、身になっていると感じている学生の記述が目立つことから、短絡的にチェック回数を減らすことなどは効果的とは言えないと考えられる。「弾き歌いチェックの待ち時間が長く、少人数にしてほしい」などの要望に対しては、聴いている時間を有効にできるよう、「聞いている人も歌ったらよい」という意見を取り入れ、ただ聞くだけの時間にしないようにするなどの改善策が考えられる。

5) 弾き歌いに関して、困っていること、悩んでいること
〈1年生〉

・弾き歌いは、先生の前や学校ではできるのに、家で一

人ですと急にできなくなるので困っている

- ・なかなか楽しそうに明るく弾けないこと、みんなの前だと緊張する
- ・自分の好きなリズムやフレーズになってしまうことがある
- ・練習室のピアノの音が変わる
- ・右手と左手を一気にするのが難しい
- ・どんどんピアノのレベルが難しくなっていくと不安
- ・楽譜が読めない
- ・歌いながら弾くのが難しい
- ・ピアノを弾くことに集中してしまい、歌に集中できない、その逆もある
- ・本番で緊張して弾けない、いつこの感じが抜けるか心配
- ・弾き歌いの練習の仕方がわからない
- ・歌うことが苦手
- ・たくさん練習して弾けるようになって、ほかの曲になると全く弾けなくなってしまう
- ・一曲を弾けるようになるまで時間がかかってしまう
- ・ついていけない、進度が早い
- ・楽譜を見ながら弾くことができないので、覚えている、時間がたつと忘れて弾けなくなるので楽譜を読む練習をする時間を設けなければならないと思っています

〈2年生〉

- ・あがり症を少しでも改善したい
- ・実習でピアノを弾いたときには緊張せずに弾けたのだが、弾き歌いチェックは緊張し思うように弾けない、だから全員で聞くシステムを止めてほしい
- ・歌うことが苦手なので、うたについてもう少し力を入れて欲しい
- ・レッスン時間が変な時間に入ったりするため、第1～第3希望をとってできればそこに入れて欲しい
- ・楽譜を見ただけでは曲がわからないこと
- ・先生の教え方が自分に合わず、少し困った、ただ弾きたのを知ってもらうのではなく、アドバイスをもっとしてほしい
- ・実習に行くと秋の曲で全然聴いたことのない曲が多々あった
- ・弾く技術や歌い方など自分にはまだまだ足りない部分が多くあり難しい曲を弾き歌いできるまで時間がとてもかかってしまうことに悩んでいる（自分の今のレベルに悩んでいる）
- ・歌うことが苦手、声がうまく通りません

〈3年生〉

- ・練習室にいないのに、荷物があつて練習できないことが

ある

- ・ピアノレッスンを受けたほうがよいのかどうか
- ・つまってしまう（止まってしまう）時がある
- ・お腹から大きな声が出せない、発声が難しい
- ・弾き歌いチェックで未だに緊張してしまう

〈4年生〉

- ・弾き歌いになるとピアノが止まったり、声が通らなくなったりする
- ・楽譜通りだと弾けるが、移調になるとなかなか弾けない
- ・自信がない
- ・練習に時間がかかり必要
- ・実習園で“こどものうた200”を使っていないため不安がある
- ・間違えずに弾くことに精いっぱいになってしまい、ピアノの表現力がないことが悩みです
- ・…やっておけばよかった…
- ・指が動きません
- ・必要以上に緊張してしまう
- ・リズムや移調がすぐにわかりません
- ・ピアノを弾くと歌がおろそかになってしまい、声が出にくいこと

【考察】

想像以上に、困っている内容は多種多様であり、すぐに解決できそうなものもあれば、すぐには解決できないものもあった。また、個別に話せば解決できるものも多くあり、学期途中などに、音楽専任講師、ピアノレッスン講師による個別相談のような機会があるとよいと思われる。

4. ピアノレッスン講師からの聞き取り調査

指導者側からの意見聴取によって、弾き歌い技術向上をより効果的に進めたいとの考えから、今回ピアノレッスン講師にアンケートを行った。

（1）学内のピアノレッスンについて

～良いと思う点、改善したほうが良いと思う点などお書きください～

〈良いと思う点〉

- ・個人のレベルに合わせた指導ができる。特に初心者の方の1年生は不安を持っている学生が多いので、個人対応で大分授業や弾き歌いの実技の技術向上、理解をフォローできる。また、個人レッスンなので言葉遣いや社会的な態度などで改善すべき様子が見られる場合は、指導しやすい面もある
- ・自分なりの頑張りプラス客観的視点が入る点。講師が違えばいろいろな練習の仕方を聞くことができる点

- ・大人と近くで挨拶をする機会として
- ・90分をどのような形でレッスンするか、各講師に任せられている点。自分が良いと思うやり方を自由にまた試行錯誤を繰り返しながら、学生の変化の加減からやり方を変えながらできる点から毎年新鮮である
- ・少しずつ良い形へと改善されてきているのではないかと
- ・Aコース（初心者）7人になると大変だが、5人あるいは4人となるとかなり納得して指導することができる
- ・1対1のレッスンなので、個別の指導ができる。学生もわからないところを聞いてくるので、手助けになっていると思う
- ・個別でレッスンが行われており、それぞれの進度に合ったレッスンが受けられ、客観的な指摘やアドバイスが聴ける機会として貴重である
- ・前後の学生との関わりであったり、自分を他者と比較したりする時間にもなっているのではないかと考えている

〈改善点〉

- ・1コマに6人までにしてほしい
- ・講師間で共通認識が持てる場を設けて欲しい
- ・1年に1度くらい先生方の勉強会があってもよいのではないかと。長年指導させていただいているが、この曲はこれでよいのか、テンポ、感覚など私の感性のなかで伝えている。実際の現場は何か大切なのか、授業担当講師から伺いたい
- ・なるべく多くの学生にレッスンを希望してもらいたいと思う反面、指導の必要な学生に時間をかけたほうがよいのかと思うときもある

（2）「月1弾き歌いチェック」について

～良いと思う点、改善したほうがよいと思う点などお書きください～

〈良い点〉

- ・メンタル、スキル両面で、学生が自分を追い込み努力する機会になっていると思う。また学年が上がるにつれ、段取りや準備を計算（逆算して）ピアノ技術面の他にもたくさんのメリットを感じる。人前で自分の力だけで表現する際、中途半端な準備や練習では何も発揮できないという繰り返しが本人たちの意識にもいい影響を与えていると思う
- ・仕上がるペース、在学中に弾く（出会う）曲数を考え、程よいと思います
- ・7年前、技術向上のために始めたチェックが学生たちの大きな刺激となって、根付いてきていると感じる。特に成績に関係するわけでもないのに、学生たちの意識の中に、期日までに仕上げなければという思いがこ

ちらにも伝わってくる。以前はもっと課題の出る回数が多く、大変だったようだが、今は適度ではないだろうか

- ・人前で弾くことに慣れ、緊張対策によいと思います。また短期間で仕上げる能力がつくと思う
- ・一人で上手に弾けていてもあまり意味はないので、発表する場として有効だと思う。ピアノ講師にとっても学生の様子、傾向を知る、また自分の指導の改善点、課題を直接に知るうえで貴重な機会だと思う

〈改善点〉

- ・学生や時期にもよるが、曲が多すぎて、簡易的な伴奏で弾く曲が多くなってしまいう学生もあり、楽譜通りとはいかなくても、近い形にくらいは仕上げられる時間が欲しいときもある
- ・ゆとりをもって早くから全曲弾き歌いできている学生もあれば、とても間に合わないという学生の差があるので、そこをどうしたらよいと思う。ゆとりのある学生はプラスもう1曲、間に合わない学生はマイナス1曲というのは難しいだろうか

（3）効果的だと思う指導方法、困っていること、悩んでいること

～ピアノレッスンに関して効果的だと思う指導方法、また困っていること、悩んでいることなどがありましたらお書きください～

〈効果的な方法〉

- ・Cコースの学生にAコースの学生のフォローを頼んでみたりした。深い関係が生まれたり、さらっと上手に手助けをしてくれたり様々だが、Aコースの学生はもちろん、Cコースの学生にとってもいろいろな意味で勉強になっているように思う
- ・クラスによって色や雰囲気が全く変わることを思うと（テストの出来なども）個人個人の努力プラス団体戦のように、みんなでうまくなるぞ！！という勢いやパワーを持って励んでほしい
- ・「本番（練習の目的）は園や学校での活動にあり、自分がモデル（見本）になる」という意識をしっかりと持たせ取り組めるよう導く
- ・「弾く」以外の練習（歌う、言う、打つなど）も行う
- ・録画などで、指・声・背中・視線などを自分で振り返ることができるようにする
- ・最近のほかの先生方と情報を交換し合うときが増えてきた。指導が難しい学生については以前担当された先生からコツを教えて頂く、これはかなり助かっている
- ・新しい曲の時は、片手で弾かせもう片方を私が弾き、一緒に連弾をしている。これによって知らない曲でも

すぐわかるようになり両手で弾いている感覚が持てるようにしている

- ・あがり症の学生には時々前後の学生に来てもらい弾き合いをしている
- ・普段の練習で、片手ずつ練習するときからなるべく早い段階でうたいながら弾くように指導している

〈困っていること・悩んでいること〉

- ・練習不足や不慣れ感をどのように導くか
- ・常識的な生活態度について、以前は説明しなくてもできていたことができない学生もあるように感じる
- ・ここ数年、個人的な理由で来られない時にも当たり前のように振替、補講を希望する学生がいる。今後できない学生は追加レッスンしてもらって当たり前と思ってもいけない。各先生方の一つの統一基準があればいいと思う
- ・うた、発声の指導に関してはピアノ以上にどのように指導したらよいか考えてしまう

【考察】

学内ピアノレッスンの指導者は、単にピアノの技術を高めるだけでなく、将来保育を行う「人」を育てる役目を担っている。本学のピアノレスナーはピアノ、うた、幼児音楽教育などそれぞれの専門性を生かしながら学生の保育者として必要な能力を、弾き歌いの指導を通して伸ばし、その効果を上げている。短時間での効果的な指導法について試行錯誤で行っていることがアンケートから伺い知ることが出来た。

5. 全体考察と今後の課題

今回、弾き歌い指導について本学が行っている取り組み内容を整理するとともに、学生、指導者双方からアンケート調査を行うことにより、学生の弾き歌い技術向上のための課題が浮き彫りとなった。

筆者は授業を含め、学習意欲や学習効果を高めるためには、指導者、学習者が共によりよい学習環境を作っていくことが大事だと考える。そのために今回学生が挙げた改善点で効果があると思われるものについては、早い段階で改善策を取るようしてきた。

この3つの取り組みをベースに置きながら、それぞれの連携を密にすることで学習効果をさらに高められるのではないかと思っている。今後、授業―弾き歌いチェック―ピアノレッスンという取り組みの連携、学生―音楽専任講師―ピアノレッスン講師の人の連携をどのようにしていくか、その具体的方法について、引き続き研究していきたいと考えている。

引用文献、参考文献

- 1) 大辞泉, 小学館, p. 3017, 2012
- 2) 東ゆかり・白川桂子, 保育者養成校における授業カリキュラムと就職試験の内容との関連性についての一考察, 鎌倉女子大学紀要, 第14号, pp. 63-68, 2007

保育士養成課程等検討会, 保育士養成課程等の改訂について, p. 21, 2010

砂上史子, 保育内容「表現」, ミネルヴァ書房, pp. 25-28

付録：2010年度生1～4年で弾き歌いしたうた 全186曲

1年生		2年生		3年生		4年生	
1	キャベツの中から	51	歌えバンバン	103	あたまであくしゅ	161	朝いちばん早いのは
2	おなまえおしえてくださいな	52	おべんとう	104	歌えバンバン	162	おんまはみんな
3	カレーライス	53	おかたづけ	105	おべんとう	163	ぞうさんのぼうし
4	あくしゅでこんにちは	54	おかえりのうた	106	おかたづけ	164	たのしいね
5	五つのメロンパン	55	はるがきた	107	おかえりのうた	165	ドロップスのうた
6	こいのぼり	56	あたまであくしゅ	108	ガ〜ララバイ	166	びわおへそ
7	ちょうちょう	57	アビニョンのはしで	109	春が来た	167	ことりのうた
8	ぶんぶんぶん	58	いとまき	110	春の小川	168	ぼくのミックスジュース
9	チューリップ	59	おばけなんてないさ	111	こいのぼり	169	みんなの広場
10	とんとんぴげじいさん	60	おへそ	112	クラリネットこわしちゃった	170	わにのうた
11	パン屋さんにおかいもの	61	かなづちトントン	113	小さな世界	171	ひとりひとりのなをよんで
12	キラキラ星	62	ぞうさんのぼうし	114	いとまき	172	あめふりくまのこ
13	アイアイ	63	てをつなごう	115	おかあさん	173	ポキポキおどり
14	こぶたぬきつねこ	64	あらどこだ	116	めだかのがっこう	174	The HOKEY-Pokey
15	もりのくまさん	65	大きな古時計	117	ハッピーチルドレン	175	とけいのうた
16	かえるのがっしょう	66	とけいのうた	118	とんでったバナナ	176	長靴マーチ
17	かたつむり	67	おもちゃのちゃちゃちゃ	119	おんまはみんな	177	サっちゃん
18	雨降り	68	せんせいとおともだち	120	いぬのおまわりさん	178	ばらばらおちる
19	うみ	69	ふしぎなポケット	121	ライオンのうた	179	あしたもげんきでと
20	たなばたさま	70	みんなのひろば	122	わにのうた	180	アブラハムの七人の子
21	遠足に行こう！	71	ロンドン橋がおちた	123	長靴マーチ	181	あらどこだ
22	カミナリ ドンドン！	72	ありさんのおはなし	124	動物園へ行こう	182	おどろう楽しいポーレチケ
23	かなづちトントン	73	おつかいありさん	125	子ども賛美歌	183	おほしさま
24	ドレミのうた	74	おなかのへるうた	126	せんろはつづくよどこまでも	184	ガ〜ララバイ
25	まつぼっくり	75	しあわせなら手をたたこう	127	てをつなごう	185	ててて
26	とんぼのめがね	76	せんろはつづくよどこまでも	128	おすもうくまちゃん	186	はをみがきましょう
27	おおきなくりのきのしたで	77	はなび	129	おばけなんてないさ		
28	きのこ	78	むすんでひらいて	130	みずあそび		
29	どんぐりころころ	79	やまごやいっけん	131	ありさんのおはなし		
30	こおろぎ	80	むっくりくまさん	132	せんせいとおともだち		
31	村まつり	81	つき	133	アイスクリームのうた		
32	やきいもグーチーパー	82	夕焼け小焼け	134	アルプス一万尺		
33	しょうじょうじのたぬきばやし	83	いもほりのうた	135	イルカはざんぶらこ		
34	大きな古時計	84	てのひらをたいように	136	おはようクレヨン		
35	まっかな秋	85	七つの子	137	グーチョキパーでなにつくろう		
36	でぶいもちゃんちびいもちゃん	86	小さな世界	138	しずかなこはん		
37	いもほりのうた	87	いぬのおまわりさん	139	ヤッホッホ夏休み		
38	世界中のこどもたちが	88	お馬	140	赤とんぼ		
39	さんぽ	89	おおきなたいこ	141	いもほりのうた		
40	ミッキーマウスマーチ	90	こぎつね	142	おはなしゆびさん		
41	北風小僧の寒太郎	91	しゃぼんだま	143	シャベルでホイ		
42	あわてんぼうのサンタクロース	92	ちいさいあきみつけた	144	つき		
43	We Wish a Merry X'mas	93	ハッピーチルドレン	145	みんなの広場		
44	サンタが街にやってくる	94	連弾曲	146	夕焼け小焼け		
45	きよしこの夜	95	おしょうがつ	147	赤い鳥小鳥		
46	ジングルベル	96	ガ〜ララバイ	148	あらどこだ		
47	赤鼻のトナカイ	97	サンタクロース	149	かわいいかくれんぼ		
48	お正月	98	たきび	150	きくのはな		
49	カレンダーマーチ	99	はじめの一步	151	ぞうさんのぼうし		
50	はじめの一步	101	ゆきのこぼうず	152	走るの大好き		
		102	そうだったらいいのにな	153	パレード		
				154	朝いちばん早いのは		
				155	アブラハムの七人の子		
				156	くつがなる		
				157	たのしいね		
				158	ドロップスのうた		
				159	ゆきのべんきやさん		
				160	ぼくのミックスジュース		